



冬のカビ対策

カビの発生は梅雨のイメージがあるかもしれませんが、実は冬も要注意です。

暖房器具や加湿器の使用により結露が起こり、その湿気によってカビが生えやすくなるのです。

乾燥しやすい冬なのにカビが発生する理由

冬もカビに注意しなければならない原因の一つは結露です。

結露とは温度差が大きい場所に発生します。暖かい空気は水分を多く含むことができますが、温度が下がると含める水分量が下がり水蒸気から水に変わります。その水分が結露です。窓に結露ができるのは暖房で暖められた室内の空気が冷たい窓に触れたことによるものです。

暖房や加湿器の使用により室内の温度や湿度が高くなり外気温との差が開くと、結露が生じやすくなります。カビは温度と湿度と栄養がある場所に発生します。暖房による温度と加湿器や結露による湿気、埃などのゴミが栄養となって、カビが繁殖します。意外にも冬はカビが発生しやすい条件が揃っているのです。

冬のカビが発生しやすい場所と対策

窓・カーテン

室内外をつなぐ窓は温度差が開くため、結露が非常に発生しやすい場所です。

結露は放っておくとカビの原因になるため、気づいたら拭き取りましょう。ただ、毎日窓やその周りを拭くというのは正直面倒。結露防止シートを窓に貼って屋内外からの温度の影響を弱め、結露を防ぐという方法があります。さらに結露吸収テープを下部に貼り付けておくと落ちてくる水を吸収し、窓枠やサッシのカビを防ぎます。

加湿器

内部は汚れやすく湿気も多い場所です。手入れをしないしているとカビが発生して、加湿器を使うたびにカビをまき散らしている可能性も。使用する水は毎日交換し、フィルターや吹き出し口の掃除はこまめにする必要があります。長期間使わないときは内部までしっかり乾燥させてから収納しましょう。

ベッド・布団

人間は寝ているとき、冬でもたくさんの汗をかきます。フローリングの上に布団を敷いている場合は、冷たい床と暖かい布団の温度差で結露が発生しやすいので特に注意が必要です。

ベッドや布団は結露が起こりやすい窓からは離しましょう。布団をフローリングに敷くのであれば、寝汗を吸い取る除湿シートを使うのもおすすめ。また、定期的に布団を干すか、布団乾燥機を使って湿気を溜め込まないように気をつけましょう。

冬の結露・カビ対策

室内の空気を循環させるサーキュレーターも結露やカビの対策に役立ちます。開けた窓に向けてサーキュレーターの風を当てると、室内の空気を外に出すことができ、短時間で効率よく換気ができます。また、サーキュレーターで室内の空気を循環させることで、暖房の効率を上げることもできます。

冬の室内で快適に過ごせる温度は20℃前後、湿度は50%前後と言われています。湿度が60%を超えてくるとカビが繁殖しやすくなります。温湿度計を用意して室内の温度や湿度を確認することで、快適な状態が保てると同時に、暖房器具の使い過ぎを防いで、節約にもつながります。

本年もイルカ調剤薬局をご利用いただき、ありがとうございました。

2022年も皆様にとって、笑顔あふれる1年でありますように。